

【育種素材の開発（研究計画概要）】

政策ニーズに対応した野菜花きの育種素材の開発

研究期間：令和8年度～令和10年度

研究機関：農研機構野菜花き研究部門

共同研究機関：宮崎県総合農業試験場、南九州大学

1. 研究背景・目的

近年の温暖化の進行や病原体レースの多様化によりピーマン栽培圃場においてネコブセンチュウ、青枯病、疫病などの土壌病害による被害が増加している。これらの土壌病害の発生を防止する新規の複合病虫害抵抗性台木素材を開発する。



左：センチュウ被害による黄化株、右：青枯病被害株

2. 研究内容

参画機関が保有している優れた育種素材を用いて、

- ・倍加半数体作出技術を駆使して、青枯病、疫病抵抗性素材を開発する。
- ・抵抗性連鎖マーカー選抜により、既存の抵抗性品種を冒すネコブセンチュウ（打破系ネコブセンチュウ）、トバモウイルス抵抗性を導入する。

上記により複合病虫害抵抗性を有するピーマン台木用トウガラシ品種開発のための育種素材を短期間に育成する。



左：打破系センチュウ抵抗性素材、
右：薬由来の倍加半数体作出技術

3. 達成目標

以下の複合病虫害抵抗性を有するピーマン台木用トウガラシ育種素材を開発する。

- ・複合病虫害抵抗性（ネコブセンチュウ、青枯病、疫病、トバモウイルス）
- ・打破系センチュウに対して抵抗性
- ・既存の青枯病強度抵抗性品種と同程度の強度青枯病抵抗性